



Whose Neighbor will you be?
Find your neighbor
Globally
and
Locally!



日本人としてのアイデンティティーを持って 被爆都市広島から世界に発信してほしい

● 長尾ひろみ 広島女学院大学 学長

ごあいさつ

2012年度は初めて4つの大学が連携し、広島県の補助事業である高大連携による留学生支援講座を行うことができました。大変うれしいことに、最初に企画した時の期待をそのまま実現することができました。

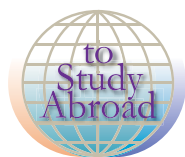
一番願ったことは、広島から海外に留学してゆく高校生、大学生に、広島人として、また日本人としてのアイデンティティーを持ってほしいと思ったことです。そのために、広島の世界遺産である宮島と原爆ドームを中心にシラバスを組みました。長い歴史のある宮島で日本を知り、世界に発信する平和の願いを被爆都市広島から海外に持って行ってもらいたいと思いました。また、連携する大学の持っている強みを出し合えたことは、企画した私たちにとっても、また受講してくれた高校生にとっても大いにプラスになったことでしょう。

最初のアイスブレイキングセッションでは、コートニー・ロレンス先生を中心とする外国人の先生が担当。日本語が全く分からない先生たちに囲まれて、受講生が一所懸命にコミュニケーションを取ることは、まず留学する環境を整えるためのものでした。最初はぎこちなかった受講生でしたが、二か月後の最後のまとめセッションでは、グループで自分が印象に残った講義をいろんな方法で発表してくれました。その時に私が感動したのは、高校一年生と大学四年生が年齢の差を感じさせず連携プレイしていたことでした。

宮島の歴史、雅楽から宗教音楽、教会音楽、世界の公衆衛生、世界の経済、世界の宗教、そして平和の意味を学びました。宮島へのフィールドワーク、エリザベト音楽大学の大きなパイプオルガンの中に入った経験等は、なかなか個人では体験できないことでした。英語での講義、日本語での講義など様々でしたが、それぞれの資料を海外に持っていっても使うことができるように、英語と日本語の両言語で揃えました。きっと役に立つことでしょう。

12月にはリユニオンで参加できる受講生が集まり、留学体験を発表してもらいました。その時、まだ留学中の人たちもいました。みんなとても頑張っている姿は素晴らしいと思いました。

きっとこの体験が、参加者の留学を支えてくれると信じています。若い人に、どんどん世界に出てゆき、グローバルな視野を広げていただきたいと願います。広島女学院大学は、これからも他の大学と連携しながら、この高大連携による留学支援講座を続けていきたいと思っています。



講座の開始にあたって



● 湯崎英彦 広島県知事

ごあいさつ

受講生の皆さん、こんにちは。
広島県知事の湯崎です。
これから「高大連携による留学支援講座」がスタートするに当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。
今日、ここに参加されている皆さんは、これから海外への留学を目指しておられる方々だと思います。中には、このプログラムが終了したら、早速、夏には海外に旅立つという方もおられるのではないのでしょうか。
留学を目指す理由は色々あると思います。英語が好きであるとか、あるいは外国に行ってみたい、また、グローバル社会と言われる中で、これから留学が大事であると考えて留学される方など様々だと思います。
今、グローバル社会と言われていますが、実際に我々が好むと好まざるに関わらず、世界とのつながりはこれから益々深くなってきます。
これは、これまで日本が中心としてきた欧米の先進国だけでなく、アジアあるいは中南米、ロシア、さらにアフリカといった国々が、一体となって経済活動を行っていますし、社会的な交流も益々深くなってきています。
日本人全体としては内向きと言われていますが、世界の国々の皆さんが、世界に出て活躍をしている時代になっていますので、日本人も世界に出ている世界の国々の皆さんと一緒に活動するということが本当に不可避な状態となっています。そういう中で、実際に留学をされるということは必ず新しい時代において、皆さんが生きていくうえで、大いに役に立つことと思います。
一方で、留学を考えていらっしゃる皆さんの中には不安を感じている方も多いのではないかと思います。言葉がうまく話せるかどうか、あるいは生活習慣・文化の違い、また友達がいなくて1人で行くといったような様々な不安があるのではないかと思います。
そうした不安を無くすためにも、このプログラムで勉強するということが大いに役立つことでしょう。このプログラムを通じて、しっかりと留学に向けて準備をしていただいて、希望と自信を持って留学への一歩を踏み出していただきたい、世界への一歩を踏み出していただきたい、そう思います。皆さんにとって有意義で、また思い出に残るような留学ができますよう心から願っています。
そして、その留学を通じて国際的な視野を養い、言葉だけでなく、外国のみなさんのことが理解できる、一緒に働くことができる、そういった能力を身につけて、帰ってきていただくことを期待しています。それではこれから、講座がスタートしますが、しっかりと勉強していただきたいと思っています。

*上記は、講座の開始に当たり、湯崎広島県知事から受講生へ向けて届けられたビデオメッセージです。

<受講生の声>



● 池田梨沙さん
・広島女学院大学国際教養学部1年

チューターの先生に誘われたことがきっかけで、このプログラムを知りました。
最初は受講生の中に高校生もいたので驚きましたが、グループごとに分かれて話し合う機会もあり、年齢に関係なくいろいろな人とコミュニケーションをとることができて良かったと思います。プログラム自体は毎回、講師やテーマが変わるので、様々な視点から日本、海外を考えられて興味深く思いましたし、留学に際し、心の準備、知識の準備がしっかりとでき素晴らしい内容だったと思います。また、来年1年間、アメリカに交換留学として行くことが決まりました。もともと留学を希望していたのですが、今回の講座を通して、改めてもっと海外を見たいと強く思いました。後輩にもぜひ薦めたいプログラムです！



● 杉井友香さん
・安田女子高校2年

講座のことは学校の先生に教えてもらいました。もともと留学に興味があったので、両親に講座のことを話すとすぐに賛成してくれたので、参加を決めました。講義では日本(広島)、海外について、改めてきちんと学ぶことができました。数週間カナダに留学したときにはその内容が大変役立ち、また日本についてきちんと英語で話せたので良かったと思います。もともと英語でコミュニケーションをとることが苦手だったのですが、今回この講座を受けて留学した際にとても楽しかったので、コミュニケーションをとることが楽しくなり、自信にもなりました。



● ハイケル・マリーさん
・広島女学院大学国際教養学部1年

特に印象に残っている講義は、「人身売買について」です。人身売買という言葉は知っていましたが、講義でより深く知ることができ、その現実にはショックも大きかったため、何かしらのアクションを起こしたいと思うようになりました。講義終了後、タイに行き、実体験をされた方にインタビューをして想像以上の内容に驚きましたが、さらに意識が高まったのも事実です。この講義を受けることができ、本当に満足しているのも、友人にもぜひ薦めたいと思います。



● 江口真央さん
・近畿大学附属東広島高校3年

NHKの朝のニュースを見て興味がわき、無料で受講できる点も良かったので、決めました。男子高校生ということで最初は少し孤独ではありましたが、徐々に打ち解けることができました。興味深かった講義はフィールドワーク、「宮島」での授業です。これまで、宮島には数回行ったことがありましたが、普通に観光していただけでした。宮島でのプログラムでは普段見られない場所にも入らせてもらい、新しい見識を広げられたのは収穫があったと思います。将来はイギリスに行ってみようと思っています。

- ・実施大学：広島女学院大学(代表校)、県立広島大学、エリザベト音楽大学、広島国際大学
- ・関係団体：広島県高等学校長協会、広島県公立高等学校長協会、広島県私立中学高等学校協会校長会、広島女学院高等学校
- ・実施期間：平成24年5月12日(土)から7月1日(日)まで

■ 授業計画 <カリキュラム内容>

- | | |
|---|--|
| 第1回 (5/12) 海外留学総論：Courtney Lawrence | 第9回 (6/16) 世界と宗教：澤村雅史 |
| 第2回 (5/12) 異文化コミュニケーション：Courtney Lawrence | 第10回 (6/23) ヒロシマと平和：Steven Leeper |
| 第3回 (5/13) 宮島で日本文化について考えよう：秋山伸隆・大知徳子 | 第11回 (6/23) プレゼンテーション準備：Courtney Lawrence |
| 第4回 (5/26) 雅楽で感じる日本文化：片桐 功 | 第12回 (6/30~7/1) ディスカッション：Courtney Lawrence |
| 第5回 (5/26) 欧米文化における音楽：佐々木悠 | 第13回 (6/30) 特別講義：戦場から平和を考える：渡部陽一 |
| 第6回 (6/9) 国際協力と日本の役割：渡邊一平 | 第14回・第15回 (7/1) |
| 第7回 (6/9) 世界の保健医療と人材育成：渡邊一平 | プレゼンテーション及び講評：Courtney Lawrence |
| 第8回 (6/16) グローバル経済の光と影：小松正昭 | |



広島県補助事業：<高大連携による留学支援講座>
平成24年度 大学連携による新たな教育プログラム開発採択事業

■ 講座コンセプト

目指せ、留学！
羽ばたけ広島！
高大連携で若者を世界へ。

[講座の目的]

本プログラムは、留学をめざす高校生、大学生を対象として、学生たちが、留学への不安を解消し、その効果を高めるための準備をすることを目的とした。このため、留学する前に受講者が必要な知識(①日本や広島の文化、②世界の宗教と文化、③世界を取り巻く問題に関する基礎知識と世界における日本の位置づけ、④平和)を得たうえで自らの意見を持ち、自らの意見を相手に伝えることができるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を育み、スムーズに留学生活を送る準備ができるよう構成したものである。また、グループディスカッションの際、大学生・高校生の混合グループを編成することで、高校生の英語学習意欲、留学への意欲向上もめざした。

[講座の構成]

はじめの講義では、アイスブレイキングとして、コミュニケーション力アップをはかるグループワークを英語のみで行い、プログラムへの導入とした。次の講義では、母国である日本、特に広島の文化を再認識するため、世界遺産宮島にてフィールドワークをおこなった。その後、芸術、宗教など、日本や世界の文化についてより深い知識を得る講義を行った。また、保健医療分野における国際協力やグローバル経済に関する基礎知識をもとに、貧困という国際的な問題をテーマに、なぜ貧困の問題が生じるのか、貧困の問題に対し、国際的にどのような取り組みがなされているのか、今後どのような取り組みが必要なのかについて学んだ。さらに、戦争や平和についての講義や講演を通して、世界、アジアにおける日本の立場、世界におけるヒロシマの立場を理解し、平和について自らの考えを構築する機会をもった。

プログラム最終回では、ネイティブ教員との生活を通じ、留学生生活を模擬体験した。一泊の研修のなかで、留学先で必要とされる周囲への思いやりと積極的なコミュニケーション、発想の柔軟性を身につけることが目的であった。受講者は一泊留学体験研修(広島女学院大学キャンパス内)の中で、海外で自らの意見を伝える力を育成することをめざして、グループ研究、英語でのプレゼンテーションを行い、研究能力、プレゼンテーション能力を育んだ。

全15回の講義について、単位認定が可能な大学の学生には、単位を与えた。

また、第6、7、8、9回について、講義実施大学での受講が困難な参加者に対して、テレビ会議システムを運用し、2名が遠隔で講義を受講した。遠隔講義受講者へのアンケートでは、「受講に特に問題はなく、対面と同様の受講が可能であった」との回答が得られた。ただし、遠隔講義のために必要なソフトウェアダウンロードに時間がかかっており、事前にオリエンテーションなどを行う必要性を感じた。なお、今回、限られた講義のみ遠隔講義を行ったのは、音楽についての講義やフィールドワーク、合宿など「体験」を重視する講義については、対面講義のみとしたこと、他の講義では受講希望者がなかったためであった。



1

第1回 [海外留学総論]



担当講師：Courtney Lawrence(広島女学院大学 専任講師)
開講日時：2012年5月12日(土) 14:00~15:30
場 所：広島女学院大学 ヒノハラホールアセンブリーホール
授業形式：対面講義、グループワーク
使用言語：英語
参加人数：33名
内 容：講座の開始に当たり、湯崎英彦広島県知事より参加者に向け、ビデオを通じてメッセージをいただいた。その後、担当講師の進行のもと、参加者全員が英語で自己紹介を行った。

2

第2回 [異文化コミュニケーション]

担当講師：Courtney Lawrence(広島女学院大学 専任講師)
開講日時：2012年5月12日(土) 15:40~17:10
場 所：広島女学院大学 ヒノハラホールアセンブリーホール
授業形式：対面講義、グループワーク
使用言語：英語
参加人数：35名
内 容：様々な人とコミュニケーションをはかるためのアクティビティを行った。
① 誕生日の順番に並び、グループ分けを行った。
② グループ内で自己紹介を行い、お互いの情報を交換した。その後、舞台上がり、グループメンバーを互いに紹介し合った。
③ Courtney先生から異文化コミュニケーションに関する講義を受け、グループに分かれて留学における様々なシチュエーションの設定に従い、劇を作成し、発表した。
その他、コミュニケーションに通じるアクティビティをいくつか行った。

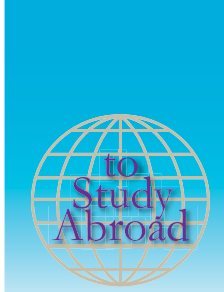


3

第3回 [宮島で日本文化について考えよう]

担当講師：秋山伸隆(県立広島大学 教授/副学長)
大知徳子(県立広島大学 宮島学センター 助教)
開講日時：2012年5月13日(日) 10:30~14:30
場 所：宮島
授業形式：フィールドワーク
使用言語：日本語
参加人数：33名
内 容：桧橋に集合し、2グループに分かれ島内散策を行った。1グループは誓真釣井をはじめ、町家通りを抜けて、もう1グループは海岸通りを抜けて五重塔・千畳閣をめざした。厳島神社、大願寺、紅葉谷を巡り、建築や神仏習合、宮島の歴史について学んだ。
大願寺ではご住職の奥様より、大願寺の歴史や神仏分離において果たした役割、お寺の建築に関するお話を伺った。その中で、世界遺産の島で暮らすことについての思いを伺うことができた。神仏習合と神仏分離、広島と宮島の歴史、海外の人々から見た厳島神社、世界遺産として登録されている厳島神社を地域の人々がどのように守ってきたのか、文化や建築などについて実際にし、触れることによって学ぶことができた。





4 第4回 [雅楽で感じる日本文化]

担当講師：片桐 功(エリザベト音楽大学 教授)
 開講日時：2012年5月26日(土) 14:00~15:30
 場 所：エリザベト音楽大学2号館506号室
 授業形式：対面講義
 使用言語：日本語
 参加人数：34名
 内 容：日本の伝統文化として現在まで継承されている雅楽について、雅楽のルーツは漢代中国にあるが、日本には、唐代になって宴楽(燕楽)とよばれたものが伝えられたことを映像などを通して学んだ。さらに、中国以外のアジア各地からも音楽舞踏が伝えられ、雅楽を含め、専門の教習機関「楽所」が設けられ、後世に継承されてきたことを理解した。
 加えて、厳島神社で行われてきた雅楽について、歴史を学び、現在どのような時にどのような構成で行われるのかを厳島神社の年間行事の一つである「桃花祭」を一例に映像などを通して体感し、理解を深めた。



5 第5回 [欧米文化における音楽(キリスト教音楽を中心に)]

担当講師：佐々木悠(エリザベト音楽大学 専任講師)
 開講日時：2012年5月26日(土) 15:40~17:10
 場 所：エリザベト音楽大学2号館506号室、セシリアホール
 授業形式：対面講義
 使用言語：日本語、英語
 参加人数：31名
 内 容：欧米においてキリスト教が文化の発展に大きな影響を与えていたことを学んだ。その中でも教会で演奏される宗教音楽について学び、文化と宗教のつながりについて理解を深めた。
 講義の後半、場所をセシリアホールに移し、パイプオルガンの構造を学んだ後、パイプオルガンの中を探検し、実際に触れ、どのような構造を持つのかを目で見、楽器の大きさを体感した。また、佐々木先生の演奏を聴くことで、座学で学んだものを体験した。



6 第6回 [国際協力と日本の役割]

担当講師：渡邊 一平(広島国際大学 教授)
 開講日時：2012年6月9日(土) 14:00~15:30
 場 所：広島女学院大学 図書館 プレゼンテーションルーム
 授業形式：対面講義 遠隔講義実施
 使用言語：日本語
 参加人数：32名(内1名 遠隔受講)
 内 容：貧困、教育、疾病、幼児死亡率など保健医療分野における世界の問題に関する知識を得て、国際連合の存在目的と設立から現在に至るまでの歴史及び国際連合を中心とした人的貢献について理解を深めた。世界で様々な国への支援が行われている中、日本が国際連合とどのようにかわり、どのような形で国際協力活動を行っているのかについて学んだ。



7 第7回 [世界の保健医療と人材育成]

担当講師：渡邊 一平(広島国際大学 教授)
 開講日時：2012年6月9日(土) 15:40~17:10
 場 所：広島女学院大学 図書館 プレゼンテーションルーム
 授業形式：対面講義 遠隔講義実施
 使用言語：日本語
 参加人数：32名(内1名 遠隔受講)
 内 容：健康とは何か、医療とは何を指すのか、といった保健医療分野に関する基本的な知識を得ると同時に、世界の保健医療分野が抱える問題点について理解を深めた。さらに、国際連合を中心とした人的貢献、また、日本の国際協力活動がどのような仕組みで働き、具体的にどのような支援が行われているのかを学び、今後、どのような人材が必要とされているのかについて理解を深めた。



8 第8回 [グローバル経済の光と影]

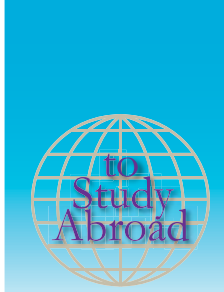
担当講師：小松正昭(広島女学院大学 教授)
 開講日時：2012年6月16日(土) 14:00~15:30
 場 所：広島女学院大学 ソフィア館 101
 授業形式：対面講義 遠隔講義実施
 使用言語：英語(日本語)
 参加人数：34名(内1名 遠隔受講)
 内 容：世界の経済システムの歴史や基礎知識を得たうえで、経済問題について学んだ。現在、グローバル化が進む中で、資本が世界各国を移動すること、情報のスピード化などにより、経済問題がより複雑化している状態を理解した。このような中で、宗教、文化、経済、政治などの違いを越えた統合的なアプローチが問題解決の可能性を持つことを学んだ。



9 第9回 [世界と宗教]

担当講師：澤村雅史(広島女学院大学 准教授)
 開講日時：2012年6月16日(土) 15:40~16:10
 場 所：広島女学院大学 ソフィア館 101
 授業形式：対面講義 遠隔講義実施
 使用言語：英語(日本語)
 参加人数：34名(内1名 遠隔受講)
 内 容：まず、受講者の考える「宗教」について再認識する機会を持った。そののち、世界における「宗教」の位置づけ、日本人の宗教観の特徴を学んだ。科学的世界観は「方法・手段」を示すのに対し、宗教的世界観は「理由」を示す世界観であり、宗教的世界観と科学的世界観は相補的な関係を持つことを理解した。身近な事例を教材として用い、宗教的な考え方はどういったものなのか、宗教が文化や習慣にどのような影響を与えてきたのか、宗教を知ること、宗教を越えてともに祈りを合わせることの大切さ、影響力を学んだ。





10 第10回 [ヒロシマと平和]

担当講師：Steven Leeper (広島平和文化センター 理事長)
 開講日時：2012年6月23日(土) 13:00~14:30
 場 所：広島女学院大学 ソフィア館 101
 授業形式：対面講義
 使用言語：英語
 参加人数：28名
 内 容：リーパー氏は、核兵器廃絶だけでなく、根気強い対話による平和構築の必要性を訴えられた。また、受講生は、今の世界が War Culture (戦争文化) の上に成り立っており、これを Peace Culture (平和文化) を土台にした新しい文化を構築することの必要性を学んだ。世界においてヒロシマの意味を認識し、できることから平和への行動をおこすことの重要性の理解を深めた。



11 第11回 [プレゼンテーション準備]

担当講師：Courtney Lawrence (広島女学院大学 専任講師)
 開講日時：2012年6月23日(土) 14:40~16:10
 場 所：広島女学院大学 ソフィア館 101
 授業形式：対面講義
 使用言語：英語
 参加人数：28名
 内 容：翌週のグループ発表までの流れが説明された。また、これまでの講義を通して受講者が得た問題意識について整理し、発表グループ編成のための提出資料作成を行った。



12 第12回 [ディスカッション]

担当講師：Courtney Lawrence (広島女学院大学 専任講師)
 開講日時：2012年6月30日(土) 15:30~17:00
 場 所：広島女学院大学 光風館
 授業形式：対面講義
 使用言語：英語
 参加人数：35名
 内 容：前回講義に作成した資料を基に、3つのグループ(10名-20名)を編成した。グループごとにテーマが与えられ、翌日の発表準備を行った。これまで行ってきた講義の内容についてディスカッションを行い、グループごとに研究を深めた。



13 第13回 特別講義「戦場から平和を考える」

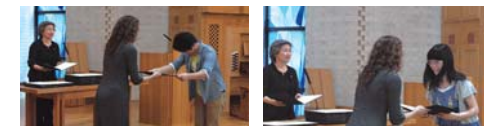
担当講師：渡部陽一 (戦場カメラマン/ジャーナリスト)
 開講日時：2012年6月30日(土) 19:00~20:30
 場 所：広島女学院大学 ランバスホール 砂本記念講堂
 授業形式：対面講義
 使用言語：日本語(国際通訳付)
 参加人数：35名
 内 容：
 1. どうして戦場カメラマンという職に就いたのか
 2. どうして戦争が起こるのか
 3. 質疑応答

上記3本の柱を中心に講演をいただいた。戦場の現状を知り、世界で何が起きているのかを理解することが平和の第一歩となると考え、情報発信の担い手として戦場カメラマンという職業を選んだことを話された。また、戦争が起こる原因の一つとして、自国の利益追求によるものがあることを示唆し、相手の国について知ることが平和への第一歩であること、また、戦争によって子どもに大きな被害が生じているという事実を通じて、戦争の悲惨さを伝えられた。質疑応答では、自らの命、家族や他人の命についてどのように考えるのか、といった質問に対し、渡部氏より、命の重さは量ることができない、との回答があり、命の大切さを語られた。世界に出ることにより広い視野を持つてほしい、とのメッセージが伝えられた。渡部氏は言葉のみならず、舞台を所狭しと使い、身体全体で受講生に語ってくれた。



14 第14回・第15回 [プレゼンテーション及び講評]

担当講師：Courtney Lawrence (広島女学院大学 専任講師)
 開講日時：2012年7月1日(日) 9:00~10:30
 場 所：広島女学院大学 ゲーンスタチャペル
 授業形式：対面講義
 使用言語：英語
 参加人数：33名
 内 容：これまでの講義を通してそれぞれが見つけた問題意識について、グループ研究した結果のプレゼンテーションを行った。1つのグループは、文化の違いによって、どのようなコミュニケーションのすれ違いが起こるのか、それをいかにして理解していくのかといったことを分析し、各自のエゴによって生じる争いがどのように解決されているのかを身近なものとして感じ、より理解することができるコミカルな劇に仕立て上げたプレゼンテーションを行った。もう1つのグループは、宮島の歴史をさらに深く研究し、仏教と神道の違いについて発表をした。宮島の歴史から、雅楽について掘り起こし、また、同じ宗教音楽であるキリスト教音楽についてプレゼンテーションを行った。最後のグループは、国際協力について広く研究し、その目標と、果たす役割をまとめ、なぜ戦争が起こるのか、どうすれば戦争を防ぐことができるのかをまとめたプレゼンテーションを行った。その後、発表に対し、参加した講師の講評があった。発表終了後、一人ひとりに修了証を授与した。





■アンケート結果

1：アンケートの実施について

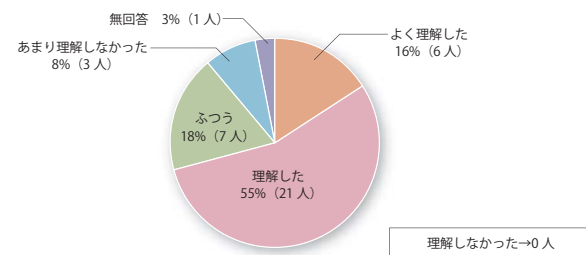
本プログラムは、参加者がコミュニケーションに必要な知識やスキルを身に付け、スムーズに留学生活を送る準備ができるよう構成した。約二カ月間、15回の講座を実施し、プログラム最終日、講座に関するアンケートを行った。参加者44名のうち38名の回答(回収率86%)を得た。その内訳は高校生15名(男子4名 女子11名)、大学生23名(男子1名 女子22名)で、プログラム当日に33名が回答、欠席者には郵送し、5名の返送があった。アンケートでは、講座について6問、学習効果について3問、留学に対する意識について2問、計11の質問をした。アンケート結果の詳細は、以下のとおりである。

2：アンケート結果詳細

▼＜I.本講座について＞

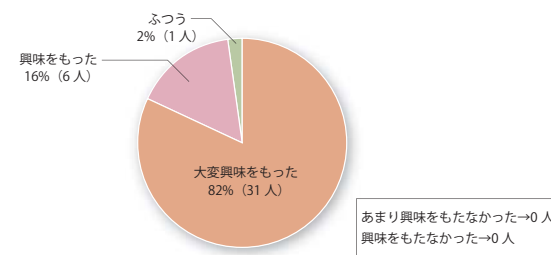
Q:1 質問[1]「今回の留学支援プログラムの授業内容を、どの程度理解しましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図I-1である。“よく理解した”、“理解した”の回答をあわせると70%を超え、参加者の3分の2以上から肯定的な回答を得た。また、“理解しなかった”との回答がなかったことから、参加者に適切な授業内容であったと考えられる。

【図I-1】
＜今回の留学支援プログラムの授業内容を、どの程度理解しましたか＞



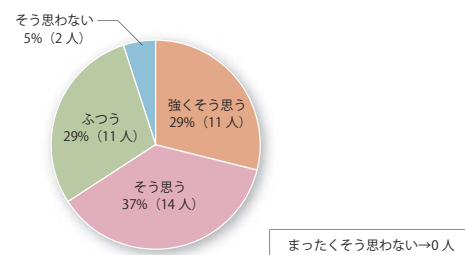
Q:3 質問[3]の「今回の留学支援プログラムの授業内容に、興味や関心を持ちましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図I-3である。回答者の82%が“大変興味をもった”、16%が“興味をもった”と答えている。このことから、本講座を通して日本文化、宗教、国際問題、平和など幅広い事柄に対する興味・関心を持ったと考えられる。

【図I-3】
＜今回の留学支援プログラムの授業内容に、興味や関心を持ちましたか＞



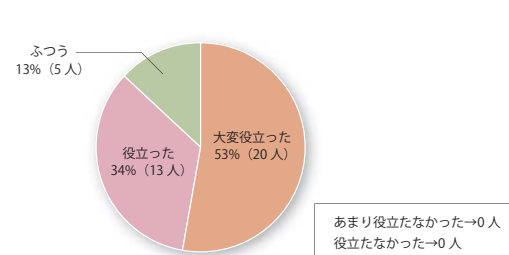
Q:2 質問[2]の「英語による講義のレベルは適切でしたか」という質問に対する回答をまとめたものが図I-2である。“強くそう思う”、“そう思う”の回答を合わせると60%を超え、“そう思わない”(適切でない)と答えたのは、5%であった。英語で行われた講義を参加者はほぼ理解できており、使用した英語のレベルが適切であったと考えられる。

【図I-2】
＜英語による講義のレベルは適切でしたか＞



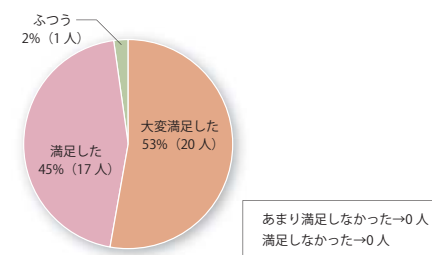
Q:4 質問[4]の「今回の留学支援プログラムは、あなたの留学準備に役立ちましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図I-4である。“大変役立った”と答えた回答者が53%、“役立った”と答えた回答者が34%であった。回答者の87%が、講座の内容を留学の準備に役立てることができたと感じている。本講座の目的である留学支援の役割は果たされており、受講者の満足度の高さにつながったと考えられる。

【図I-4】
＜今回の留学支援プログラムは、あなたの留学準備に役立ちましたか＞



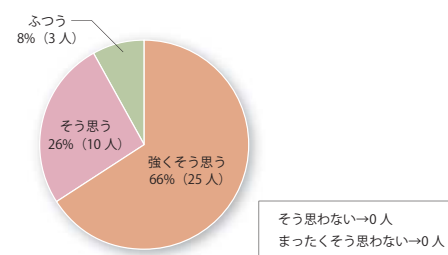
Q:5 質問[5]の「今回の留学支援プログラム全体に対する満足度を教えてください」という質問の回答をまとめたものが、図I-5である。“大変満足した”、“満足した”と答えた回答者が98%であった。講座に対し、多くの回答者から高い評価を得た。

【図I-5】
＜今回の留学支援プログラム全体に対する満足度を教えてください＞



Q:6 質問[6]の「このプログラムを、友人や知り合いに勧めたいと思いますか」という質問に対する回答をまとめたものが図I-6である。回答者の66%が“強くそう思う”、26%が“そう思う”と回答した。他者への推薦に値する内容であると多くの回答者から評価を得られた。

【図I-6】
＜このプログラムを、友人や知り合いに勧めたいと思いますか＞



「I. 本講座について」アンケート結果の考察

本講座に関するアンケートについて、肯定的な回答が多く得られた。受講者の多くが、講義を理解し、英語の講義についても英語レベルが適切だと感じており、プログラムの満足度が高くなったと考えられる。講義を理解したこととグループ研究を行ったことにより、プログラムで取り扱った事柄への興味・関心が高まったと考えられる。また、受講者の満足度が高く、周囲へ推薦したい、との回答が多く得られた。今後の継続的な開講が望まれていると考えることができる。

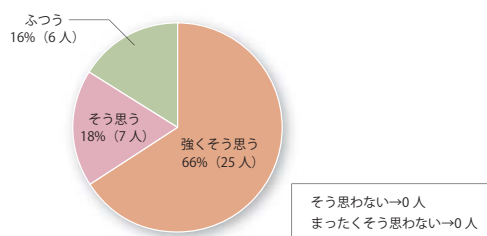


■ アンケート結果

▼ <Ⅱ.プログラムの学習効果について>

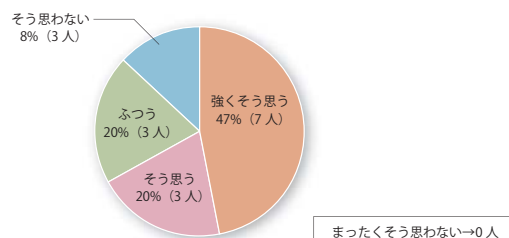
Q:1 質問[1]の「高校生と大学生と一緒に講義を受講することで、学習効果が高まりましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図Ⅱ-1である。80%以上の回答者が、高校生と大学生が共に受講することによって学習効果が高まったと回答した。“そう思わない”、“まったくそう思わない”の回答はなく、高校生、大学生の合同プログラム形態に、多くの回答者が学習効果を感じている。

【図Ⅱ-1】
<高校生と大学生と一緒に講義を受講することで、学習効果が高まりましたか>



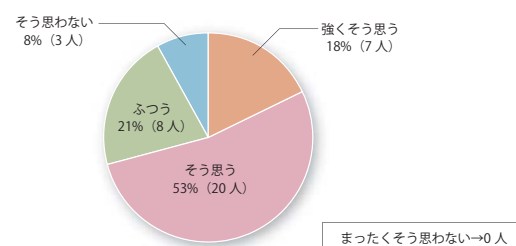
Q:2 質問[2]の「複数の大学の講義を受講し、県内大学について知りたいと思いましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図Ⅱ-2である。この質問は高校生を対象に回答を求めた。その結果、“強くそう思う”、“そう思う”に合わせ、70%近い回答あった。連携4大学の特色を生かしたプログラムにより、県内の大学への関心が高まったことが考えられる。

【図Ⅱ-2】
<複数の大学の講義を受講し、県内大学について知りたいと思いましたか> (高校生のみ)



Q:3 質問[3]の「英語力は向上したと思いますか」という質問に対する回答をまとめたものが図Ⅱ-3である。“強くそう思う”、“そう思う”との回答が70%を超えた。二か月に及ぶ講座の英語の授業を通して、英語力の向上を実感した回答者が多く見られたと考えられる。これは、講義やネイティブの教員、英語で会話をする参加者との交流の中で、英語学習のモチベーションが上り、英語力向上につながったことが考えられる。

【図Ⅱ-3】
<英語力は向上したと思いますか>



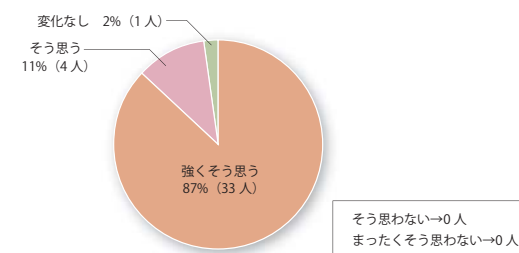
「Ⅱ.プログラムの学習効果について」
アンケート結果の考察

高校生、大学生の混合での受講によって学習意欲が高まったと多くの受講者が感じており、講座の目的である「高校生の英語学習意欲、留学への意欲向上」だけではなく、大学生も高校生から刺激を受け、学習意欲が高まったことが考えられる。その結果、受講者は、プログラムを通して英語力が向上したと感じており、また、県内大学への関心も高まったと考えられる。

▼ <Ⅲ.留学に対する意識について>

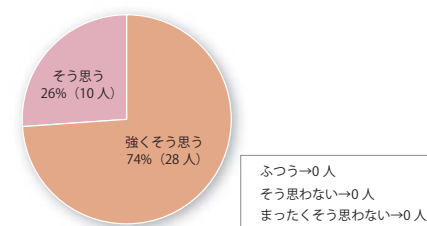
Q:1 質問[1]の「留学し、海外で学びたい気持ちが強くなりましたか」という質問に対する回答をまとめたものが、図Ⅲ-1である。回答者のほぼ全員が“そう思う”または、“強くそう思う”と回答している。今回、英語のみの講義や、合宿形式のプログラムをとおして、留学への意識が強まったと考えられる。

【図Ⅲ-1】
<留学し、海外で学びたい気持ちが強くなりましたか>



Q:2 質問[2]の「将来、機会があれば海外で働きたいと思いますか」という質問に対する回答をまとめたものが、図Ⅲ-2である。全回答者全員が、海外で働きたいと回答した。留学を予定している受講者が、さらに将来、海外で働くことも思い描いている。本プログラムへの参加要件に「留学を予定しているもの」があり、プログラム参加前から海外での活躍を求める志向が強い受講者が多くいたことが予想される。しかし、本プログラムを通して、留学への不安が解消され、さらに海外での活躍を思い描くことができるようになった受講者もいるのではないだろうか。

【図Ⅲ-2】
<将来、機会があれば海外で働きたいと思いますか>



「Ⅲ.留学に対する意識について」
アンケート結果の考察

プログラム後に実施した本アンケートでは、留学への意識が強まったと回答している受講者が98%、将来機会があれば海外で働きたいと考えている受講者が100% (内、74%が“強くそう思う”と回答)であった。グローバル化が進む中、世界に興味を持った生徒、学生が本講座に参加していること、さらに、講座を通して海外での学びや活躍を求める意欲が強くなったといえるであろう。

3：考察

アンケートの最後に、プログラム全体の感想を自由記述の形式で尋ねたところ、“視野が広がり、基礎教養を得ることができた”というものや、“座学だけでなくフィールドワークなどバラエティーに富んだ講義を楽しんだ”、“貴重な機会だった”、また、プレゼンテーションを通して、“緊張せず自己表現力を養えた”など、多くの好意的な意見を得た。アンケート結果からも、多くの参加者が講座内容に興味、関心をもって理解し、学修したと推察され、講座の目的である留学時のコミュニケーションに必要な知識、さらに将来の目的について考える材料を提供したと評価できる。特に、二か月間のプログラム後半には、ネイティブ教員との積極的なコミュニケーションなど、参加者の成長がうかがえた。具体的には、第10回の「ヒロシマと平和」と題した広島平和文化センター理事長Steven Leeper氏の講義や、第13回におこなった戦場カメラマン・ジャーナリスト渡部陽一氏の講演「戦場から平和を考える」での質疑応答では、受講者がプログラムで学んだことをもとに活発に質問する場面もあり、プログラム内容を吸収し、意欲的に参加していく様子がみられた。

高校生、大学生が共に学ぶことによって、学修効果が得られた。記述式アンケートの回答では、“大学生と接することが楽しかった”、“レベルが高い大学生と学び刺激になった”という高校生の声もあった。留学という共通目標をもった者同士、うちとけたようだ。留学は、多様な人間と接する場でもあるため、高大連携プログラムは学生たちにとって、留学を疑似体験できる機会にもなった。異なる学校の学生と交流、

情報交換し、最終日には親交を深めて、別れを惜しむ場面もみられた。

英語力に関しては、高校生のなかにプログラムのレベルに達しないと感じているものもいたようだ。しかし、講師陣とわかりやすい英語で会話することで、理解したときの自信を語る者もあった。講座中では、英語での講義を理解する環境、受講者が英語を話す環境を整え、また、ネイティブ教員と接する機会を多く設けたことから、受講者からは、このプログラムについて“貴重な体験だった”や、“学習意欲を刺激された”といった感想もあり、語学力を高めるきっかけにつながったと思われる。最終回のプレゼンテーションでは、表現力を培い、英語力向上を意識する良い機会になり、さらに成長し充実した時間を過ごしたようだ。

受講者の留学について、具体的に予定を決めていたものは三分の一程度で、行き先としてはアメリカを中心に英語圏の国々（イギリス、カナダ、ニュージーランド、オーストラリア）などが多く、期間は数週間から、二年であった。また、英語圏以外で、フランス、スペインを想定しているものもあった。実際にプログラム後の夏休みに海外へ渡った学生も5名前後いた。

アンケート最後の感想は、肯定的なものがほとんどで、“今回の講座に参加してよかった”、また“留学支援プログラムをやってほしい”という声は、今後こういった講座への参加意欲を示すものである。





[今後の課題]

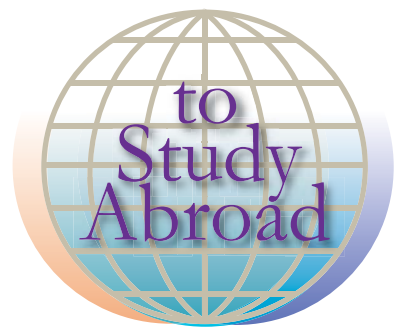
本講座の出席率は、高かった。単位取得可能になる出席率3分の2以上の受講者は27名、うち出席率100%は13名であった。各回、参加者全体の概ね7～8割が出席したが、週末実施のプログラムであるため、やむをえず欠席する者もあった。特に高校生は、この時期、週末の学校行事(体育祭、文化祭など)も多く、出席できないこともあり、参加者が出席しやすいスケジュールづくりは、今後の課題である。

また、受講生募集に関しては、広島県教育委員会を通じ公立高等学校へ、広島県私立中学高等学校協会校長会を通じ私立高等学校へ周知を依頼した結果、高校の留学プログラムに参加予定の生徒などが参加した。大学生には、連携校を中心に単位取得などのメリットが参加を促したようだが、今後より幅広い参加者を募るために、講義内容を早く決定し、教育ネットワーク中国の単位互換科目に正式登録するなど、周知方法を検討する必要がある。

授業内容に関しては、芸術、文化から国際問題におよぶ幅広いテーマで、多くの受講者が「関心をもった」と感想があったが、一部の講義では、多少難易度が高かったと、数名の高校生が述べた。講義は、高校生が大学レベルのものを学ぶ趣旨もあり、難しく感じた可能性もあるが、より理解が進むように、授業資料配布から授業当日までの時間に余裕をもたせ、十分な準備ができるよう改善の余地がある。

最後に、このような留学に向けた講座はこれまで開かれておらず、アンケートの感想からもうかがえるように、今回の講座を歓迎する声が多かった。このことから、受講者の声を参考にし、さらに検討を重ね、効果的なプログラムを提供していきたい。

Forward the Future!



2012

広島県補助事業：＜高大連携による留学支援講座＞
平成24年度 大学連携による新たな教育プログラム開発

■実施事業報告

HAND in HAND



「世界の誰かと…」

目指せ、留学！
羽ばたけ広島！
高大連携で若者を世界へ。

to
Study
Abroad



広島女学院大学



県立広島大学



エリザベト音楽大学

常翔学園



広島国際大学
Hiroshima International Univ.

●連携校：広島女学院大学・県立広島大学・エリザベト音楽大学・広島国際大学



HIROSHIMA JOGAKUIN UNIVERSITY